

成果の説明書

(氏名) 鈴木 耕太郎	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
○教育上の成果に関する事項	
<p>2020年度について、まず演習科目は通年で演習Ⅰ（金・4限）、演習Ⅱ（木・3限）を担当し、そのほか後期に基礎演習（木・5限）を担当した。講義科目は前期に博物館概論（金・1限）、後期に民俗学（木・2限）と地域文化論（金・3限）を担当した（またリレー講義である「地域づくり論」や「地域づくりを学ぶ」も一部担当した）。当該年度は新型コロナウイルス（COVID-19）流行により、演習科目を除いてすべてリアルタイムのオンライン配信で行ったが、ZOOMの機能である「ブレイクアウトセッション」を用いるなどしてなるべく対面型講義と同様の学びの確保に力を入れた。当該年度は授業評価アンケートは行われなかったが、「2021年度授業実施にかかる学生アンケート」の中の「最も興味深いと思った科目」の中に民俗学や地域文化論をあげる学生もいたことを確認している。</p> <p>なお、社会情勢を鑑みながら安全に気をつけて行った取り組みとしては、民俗学・地域文化論受講者のなかから有志を募って「水上温泉郷」へのフィールドワーク、そして「安中旧街道沿フィールドワーク」を行った。こうした取り組みには好意的反応が多く示されたため、可能な限り今後も継続して行っていきたい。また基礎演習では桐生市内で、演習Ⅰでは貫前神社周辺でそれぞれ（巡見型）フィールドワークを行い、民俗学ゼミとして地域を歩くことの意義を伝えた。</p>	
○職務上の成果に関する事項	
【学外業務】	
1：立命館大学日本文学会 評議員	
2：高崎経済大学地域政策学会 理事	
【社会貢献活動】	
1：2020年度教員免許更新講習講師（2020年8月14日：講習タイトル「地域文化と民俗」）	
2：高崎経済大学地域科学研究所公開講演会コーディネーター（2020年10月24日：講演者は総本山仁和寺学芸員・朝川美幸様）	
3：高崎経済大学地域科学研究所市民ゼミ講師（2020年11月6日：ゼミタイトル「日本における宗教・信仰観を考える」）	
4：株式会社 食文化さまからの依頼原稿の執筆・連載（同社運営「うまいもんBLOG」内の連載記事「牛頭天王とは何者か」執筆）	
○研究上の成果に関する事項	
【学術書・分担執筆】	

- 1：鈴木耕太郎「長野堰と長野氏」「『長野堰史』現代語訳および解説」（高崎経済大学地域科学研究所編『農業用水と地域再生——高崎市・長野堰の事例——』日本経済評論社、2021年3月）
- 2：西野寿章・鈴木耕太郎「「伝承」の検証」（高崎経済大学地域科学研究所編『農業用水と地域再生——高崎市・長野堰の事例——』日本経済評論社、2021年3月）

【論文・学術コラム】

- 0：鈴木耕太郎「地方における牛頭天王信仰の受容と展開の一考察——『須佐神社縁起』の読解を通して——」（『蓮花寺佛教研究所 紀要』13号、2020年3月 ※一昨年度成果だが、昨年度成果報告時には報告が出来なかったため、ここに記す）
- 1：鈴木耕太郎「スサノヲの悪をめぐって——『釈日本紀』から『日本書紀纂疏』の変遷を考える——」（山下久夫・斎藤英喜編『日本書紀一三〇〇年史を問う』思文閣出版、2020年6月）
- 2：西野寿章・鈴木耕太郎「長野堰の成立時期に関する一考察」（『産業研究』第56巻第1号、2020年11月）

【書評】

- ・鈴木耕太郎「書評 山中弘編『現代宗教とスピリチュアル・マーケット』（弘文堂、2020年）」（『地域政策研究』第23巻第3号、2021年2月）

【研究会報告】

- ・長楽寺永禄日記勉強会発表（『長楽寺永禄日記』永禄八年二月廿日条輪読、2021年2月14日、オンライン開催）

【その他】

- ・京都民俗学会第40回年次大会（オンライン開催）で一部、司会進行を務めた。

2 その他の事項

- ・科学研究費助成事業 若手研究 採択（課題名「中世から近世への転換期に作成された牛頭天王信仰に関するテキストの総合的調査と研究」）

3 次年度以降の計画・抱負

【教育面および社会貢献活動】

- ・2021年度から講義は原則対面となるものの、新型コロナウイルス感染拡大は相変わらず続くことが予想されるため、受講生の安全・安心につながるよう最大限配慮しながら、受講生の知的好奇心を満たすよう努力したい。
- ・社会の情勢如何のところもあるが、2020年度に行った受講者有志を募ってのフィールドワークは今年度も継続できるならしたい。

【研究活動】

- ・すでに学会報告、論文寄稿（招待）が決まっているものがあるため、まずは着実にそれらを行いつつ、できれば資料調査なども同時並行で行っていきたい。

